

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800333		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家 西舞子		
所在地	兵庫県神戸市垂水区西舞子7-30-16		
自己評価作成日	平成30年8月25日	評価結果市町村受理日	平成30年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成30年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規オープンして2年が経ち、入居者様・家族様、地域の方々にとっても、過ごしやすい環境作りをし、安心して生活できるように心がけています。利用者様が安心・楽しんで生活をして頂けるよう、様々なレクリエーション等を企画しています。地域のボランティアの方々をお招きし、外部との交流を図り、地域に馴染んだ日常を提供できるように、協力して頂いています。また、事業所法人より、充実した定期的な研修を受け、職員全員の意識・意欲向上や、ケアの質の向上に努め、法人の強みと、事業所の特性を魅力とした、地域の方々可愛され、安心できるような施設作りを目指しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・職員の60数%が介護福祉士資格を持ち、またキャリアを積んだ支援員が多数を占め、きめ細かな支援を実践している。・設備面でトイレ・風呂場は介助スペースを程よく取り、入浴時スライディングボード使用ではなく両サイドに浴槽端と合わせた椅子活用スペースを確保し、安心入浴と支援者負担を軽減の設備としている。
 【工夫点】・開設2年目を向かえ、途次利用者も5名の入替えある中、利用者・家族が居心地よく安心して暮らせる諸工夫を実践している。・利用者の持つ特性を見出し、習字を長年された利用者毎日の献立を書いてもらい掲示したり、料理作りの手伝いや片づけ等も本人の意向を把握し食事時にしてもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに施設理念掲げており、忘れないようにフロアに啓示している。	昨年度目標計画にもとづき7月に職員と協働し施設理念を策定、玄関及び2Hエレベーター前に掲示し、全職員はその理念にもとづく支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候によるが、定期的に散歩に出かけ、近所の公園で、近所の方々と触れ合う機会を作ったり、地域の訪問理容やお弁当屋等、利用させて頂いている。	近くに公園と、遺跡公園があり、散歩時は近所の方々と触れ合う機会があり、訪問当日も各フロア入口で訪問理容を利用中。自治会長が運営推進会議に参加、地域情報を得ている。	開設2年目であり、地域住民への認知活動浸透はこれからの課題。自治会長の提案もあり、認知症理解への勉強会協働等更なる地域住民とのつきあい機会の工夫が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症専門とする施設の連絡会や、地域ケア会議に参加し、認知症の方々の生活や様子を話す機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状のサービスや活動内容を報告し、家族様の想いや希望、意見を求めるようにしている。行事案内を事前に知らせてくれれば、一緒に参加できると意見があり、事前に知らせるようにしている。	定めた様式議題にもとづき活動状況、行事、事故報告等実施後、あんすこ、自治会長、同業者、一部家族参加者を含め意見交換を行い、行事案内事前配布等意見を受け実施等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の連絡会や地域ケア会議に参加し、意見交換や、情報交換を行っている。	地域包括支援センターよりの市担当への活動報告を充実すべく当該センター主催の連絡会や地域ケア会議に積極的に参加し、意見交換・情報交換を実施し、協力関係を築く活動を推進している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、管理者が受け、情報を施設に持ち帰り、全体に伝達をしている。	4月改訂にもとづく「身体拘束適正化委員会」を2ヶ月に1回、運営推進会議メンバーで行う仕組みを整備し、法人研修計画にもとづく研修に参加し伝達講習を行っている。玄関施錠は、外部無断侵入防止上等でインターホン開錠としている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を定期的に行い、虐待防止に関して学ぶ機会を設けている。	法人主導の虐待防止研修に参加し当該法を学ぶ機会を持ち、伝達研修を実施している。研修参加者の評価・分析は法人が行い必要に応じ後日、本社関係者参加の”ふれあいミーティング”で意見交換し、虐待が見過ごされることがないよう防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を、管理者が参加しており、職員にも伝達を行い、学ぶ機会を設けている。	管理者は、法人主催のコンプライアンス人権研修に参加し全職員に伝達研修を実施、同制度を学ぶ機会を持ち、現在は利用者はいないが、個々の必要性を話し合い活用への学びを進めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解がないように、丁寧に説明をしている。また、場合によっては、上司が同席して、十分な説明を行っている。	契約等では、利用者関心事の退所要件等十分な説明を行い、必要に応じエリア担当者が同席し、誤解がないような説明を行っている。	開設2年目を向かえ、当初に比べ実情把握の家族等より今回アンケートでの実情不満指摘もあり、これらに対する真摯な対応が望まれる。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が、話しやすいような関係づくりをしたり、家族様が面会に来られた際には、ゆっくりと話せる時間を持てるようにしている	請求書配布時に満足度調査を年1回実施し、結果は運営推進会議で報告や訪問される家族面会時に話し、これらからの意見等は運営に反映している。利用者の大半は垂水区が主である。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各フロアの会議を設け、意見交換が言える場所を作っている。	職員意見は、毎月の各フロア一会議で話題とし、1例としてリビングルームよりの窓外庭園に室内より良く見えるヒマワリをの提案があり、提案者持参の種を植えたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持って働けるように、誰伸制度や、キャリア段位制度を導入し、各自が環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的開催される研修を受講し、施設内で全体に伝達研修を行うことで、全員が受けられるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の定期的な会議や研修への参加を促し、ネットワーク作りを通じて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつでも施設内を見学していただけるようにし、また、情報収集することで、生活が継続できるように配慮している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談を受けれることを、見学時や入所前に説明をしており、話しやすい関係作りに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズによっては同じグループ内の他のサービスや、他事業所のサービスを勧めることもある。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中で、入居者様自身で出来ることは、積極的に手伝っていただき、職員や他利用者様との関係が深まるように、支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の生活の様子を、家族様にお伝えし、情報共有し、ホームに来て様子をみていただいたり等、協力をお願いしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方や、友人の方々が面会に来やすいような環境作りに取り組んでいる。	本人が培ってきた関係性を断ち切らないよう知人や友人が事業所に訪れ継続的な交流ができるように働きかけている。土日は家族の方が来られ賑わう。お孫さんが毎日好物を届けに来られる方もおり、今までの関係をとても大切にしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じて、コミュニケーションを図って頂き、お互いが支え合える関係になれるように支援している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な時は、いつでも相談を受ける旨説明している。退居される場合も、行先と一緒に探したりし、その後の暮らしぶりを家族様より、聞けたりすることもある		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人や家族様が望む生活や希望を聞き、言葉や思いを記録に残し、その思いに近づけるように努めている。	日々の関りの中で声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測り、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得てどのように暮らすのが最良なのか1か月1回各フロア会議などで職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活と変わらないように、居宅や施設におられた際の情報収集をし、支援するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に、一人一人の様子を記録し情報を共有し現状の把握に努めている。必要に応じて、医療連携を取っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族様の意向を聞ける機会を持ち、サービス担当者会議で検討をしている。	利用者一人ひとりの生活習慣やリズムを理解し、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め日頃の関りの中で気づきを介護記録等に残し職員で意見交換やモニタリング、引継ぎを活用し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日報、連絡ノートや申し送りを活用し、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や理美容など、地域にあるサービスを、その時々を選択し、ニーズに繋げられるように努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容や訪問歯科、往診医等、地域の中で安心して生活できるようサポートして頂いている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の意向を確認し、医療機関を受診している。また、定期的に往診して頂いている主治医より、変化があれば、外来受診の指示等お願いしている。	適切な医療を受けられるよう入居時に、かかりつけ医の希望を確認する。各ユニット毎に2週に1回の往診がある。体調の些細な変化を見逃さないよう毎日看護師が状態観察訪問し、往診医と密に連携し早期発見に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、利用者様の情報を報告、相談し、往診医や薬局との連携を図っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様の必要な情報を提供し、退院時には、カンファレンスを開催して頂き、入院によるダメージを極力防ぐように努めている。	入院によるダメージを極力防ぐため、可能な限り事業所として支援内容等の情報を伝えている。病院とは情報交換を行い面会にも立ち寄り、退院時は話し合いに家族も参加して貰い、リハビリの内容やケアの方法について主治医のアドバイスを心得て出来ることを十分話し合う取り組みを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応できる看取りケアについて、家族様に説明をし、家族様・主治医・看護師・担当者で、今後のケアの方針、想定される状況などについて確認し、取り組むようにしている。	入居時に看取りのあり方など説明している。納得した最期を迎えられるよう本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応し得る最大の支援方法を踏まえ職員で話し合いながら支援している。訪問看護と連携しアドバイスを受けながら看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・急変時に慌てることなく対応できるように、日頃から情報共有をしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、昼夜に想定できる災害に対し、自主訓練を行っている。地域との協力体制はまだできていない。	年2回昼夜想定自主避難訓練を実施している。2Fは非常口よりの回廊により玄関道路への非常階段に繋がっている。備蓄は3日分準備あり。また非常時には、通常食材もあり応急のおにぎり等の対応も可能としている。	運営推進会議参加の自治会長との協働による計画的な地域住民参加推進工夫が望まれる。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的研修を行い、情報共有をしている。言葉かけや利用者様に対する対応を配慮している。	年長者として敬意を払い、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。援助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個人にあったサービスや、コミュニケーションを図り、言葉だけではなく、表情や行動の中にある思いを気づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様自身のペースに合わせ、希望や体調を細かく記録し、出来る事を積極的にしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時、入浴後等、本院様と一緒に服を選んでいただき、その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに興味のある方には参加して頂き、出来る範囲の食事作りの手伝いをして頂いている。	暮らしの中で食事は重要な位置にあり、利用者個々の力を活かしながら職員と共に調理や盛り付け、片づけなどその人がやってみたいという気持ちを引き出すよう工夫している。職員も一緒に食卓を囲み楽しく食べることを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを調理し、1日のカロリーや栄養バランス等管理している。塩分制限のある方には、塩分制限の食事等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援している。また、週に一回の訪問歯科による口腔ケアを実施している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を確認し、必要に応じてトイレ誘導を行うことで、失禁の困惑や羞恥を軽減するように支援している。	トイレ排泄を可能にするために「行きたい時にトイレに行くことができる。」よう本人のリズムや一人ひとりのサインを職員全員が把握している。使いやすいスペースも確保され、気持ちよくトイレで排泄できるよう環境面も整備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を把握し、散歩や体操といった運動を取り組むことで、自然な排泄を支援している。出にくい方は、主治医に相談し、下剤を服用していただいている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日によって決まっているが、利用者様の希望やタイミングによって柔軟な対応をしている。	入浴は週2～3回。職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望やタイミングを確認し、支援している。浴室は利用者の安心感と満足が得られる工夫がなされ、スムーズで安全・安心な環境で個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のリズムや習慣を大切に、個々の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、薬に関する情報書で、職員全員が内容を理解し、確実に服薬できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、レクリエーションや散歩などを通じて、コミュニケーションを図り、気分転換できるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	下肢筋力低下防止の為、状況に応じて地域の公園まで散歩に行ったり、買い物と一緒に行く等、支援している。。	気分転換や一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて戸外に出かけている。毎日の散歩や近隣の公園まで2～3名で出かけている。おやつや飲み物の買い出しなど短時間でも戸外に出る機会を作っている。初詣やお花見など各フロアの外出も年数回は計画的に支援推進している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、ホームで管理している。利用者様の希望があれば、一緒に買い物に出かけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、電話を取り次いだり、手紙が届けば、本人様に渡すように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、イベント等で撮った写真を貼ったり、ご自身で造られた作品や、季節に応じた飾りを各ユニットで工夫している。	共用空間には、利用者への不快や混乱を招かない様共同外出等のイベント写真、個々の作品、季節感のある飾りつけや習字の得意な利用者による日々のメニュー作成掲示等生活感も採り入れ居心地よく過ごせる様な工夫を各ユニットでしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアに腰を掛けれるスペースを取り、その時の気分で思い思い座れるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みのあるものを持ってきていただいたり、家族の写真を飾ったりなど、くつろげるように工夫している。	居室には本人や家族と相談し、本人の馴染みのある家族の写真、鏡台等を持ち込むなど、くつろげるよう工夫をしている。	1階ユニット一部居室よりの窓外は、隣家簡易倉庫の背面展望現状に対し、花壇スペース未活用。季節感を感じる植栽等の工夫が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、レイアウトを本人様と一緒にしている。また、トイレや居室が分かりやすく表示し、混乱を防いでいる。		